

魅力を感じる異性像の分析

高坂康雅 *KOSAKA Yasumasa*

- 1 — 問題と目的
- 2 — 方法
- 3 — 結果
- 4 — 考察

【要旨】本研究の目的は、松井ら（1983）の追試を行うことで、現在における魅力を感じる異性のパターンを抽出することであった。大学生 273 名を対象に、最も魅力を感じる異性を 1 名想起してもらい、その人物の人柄や印象・雰囲気に関する質問に回答してもらった。また、同時に、異性が魅力を感じる人物についての評定も求めた。各項目への回答率をみると、魅力を感じる異性の特徴は、松井ら（1983）と大きな差異はみられなかった。次に魅力を感じる異性のパターンを抽出したところ、男性が魅力を感じる異性は 4 パターン、女性が魅力を感じる異性は 3 パターン見出された。これらは松井ら（1983）から減少しており、魅力を感じる異性のパターンは、社会的に望ましい特性に収束していることが推測された。このことについて、男性役割と女性役割が接近しているという性役割観の変化をもとに考察を行った。

1 — 問題と目的

人が他者と関わる時、その人物に対して好意を抱いたり、嫌悪感をもったりすることがある。どのような人が好ましいと感じられるかについては、対人魅力の研究において検討されてきた。対人魅力研究は多岐に渡るが、魅力をもたれる（好ましいと感じられる）個人がもつ特性としては、身体的特徴や性格、社会的地位、経済力などがあげられる。

魅力をもたれる異性の性格的特徴について、加藤・返田（1961）では、大学生の理想的異性像（理想としてのぞましいと思われる異性）に関する調査を行い、男性は「明朗である」「誠実である」「生活に計画性がある」などをあげ、女性は「明朗である」「誠実である」「責任感がつよい」などをあげている。また、詫摩（1973）が大学生を対象に行った調査では、好ましい異性の性格的特徴として、男性は「明朗」「やさしい」「おおらか」などの女性を好み、女性は「やさしい」「明朗」「思いやりがある」などの男性を好むことが明らかにされている。戸塚・森・児玉・深田（2002）は、伊藤（1978）の M-H-F スケールを用いて、理想と

する異性にどの程度あてはまるかを検討している。その結果、男性性特性については10項目すべてにおいて男性よりも女性の得点が高く、女性性特性については10項目中8項目において女性よりも男性の得点が高いことを明らかにしている。これらから、女性は、男性が女性に望む男性性特性の水準よりも高い水準を男性に求めており、反対に、男性は、女性が男性に望む女性性特性の水準よりも高い水準を女性に求めているとしている。また、人間性特性では、10項目中9項目で男性よりも女性の方が得点が高かったが、男性では10項目中7項目で、女性では10項目中8項目で、理論的中間値である3.00を超えており、男女ともに人間性特性を求めており、特に女性は高い水準を男性に求めていることが明らかにされている。

このように、魅力を感じる異性の特性については、知見が積み重ねられており、「明朗」「誠実」「優しい」など社会的良 (Rosenberg, Nelson, & Vivekananthan, 1968) と関わる特性ほど、魅力を感じられる (好ましい) と判断されやすいことが示されている。しかし、人はこれらの特性を個別に有しているのではなく、複数の特性をまとめたパターンとして有していると考えられる。松井・江崎・山本 (1983) は、魅力を感じる異性像について調査を実施している。数量化Ⅲ類を行った結果、男性が魅力を感じる女性像は6パターン、女性が魅力を感じる男性像は5パターンに分類されている。ここには、「明朗」「誠実」「優しい」のような社会的良に関わる特性をもつパターンだけではなく、静かで知的なパターンやセクシーで情熱的なパターンなども抽出されており、魅力を感じる異性像の多様性が示されている。

このような魅力を感じる異性像については、時代的・文化的な変化やそれによって生じる性役割観に影響を受けると考えられる。松井ら (1983) は「全体的印象や性格などに関する魅力的な異性像となると、男らしさ、女らしさという性役割観などによって規定される部分も大きくなっていく」と指摘している。一方、上瀬 (1998) は、ライフデザイン研究所 (1996) が高校生を対象に行った調査から、「男女とも次第に、伝統的な形での男らしさ・女らしさを異性に求めなくなる傾向がみられている」と述べている。戸塚ら (2002) も急速に進む価値観の多様化やユニセックス化が理想とする異性像に影響を及ぼす可能性について言及している。後藤・廣岡 (2003) は、M-H-F スケールを用いて大学生の性役割特性語の認知について検討している。その結果、伊藤 (1978) では男性性特性とされていた「指導力がある」、「自己主張ができる」や、女性性特性とされていた「言葉づかいの丁寧な」が人間性特性に移行し、人間性特性とされていた「明るい」「暖かい」「率直な」が女性性特性に移行していることを明らかにし、男性役割と女性役割が接近するとともに、女性役割が伊藤 (1978) 当時よりも社会的に望ましいものと捉えられるようになってきていることを示唆している。吉岡・井上 (2018) でも類似の調査を実施し、「女性役割が男性役割を取り込み接近してきている一方で、男性役割は女性役割を取り込み接近してきている」と述べている。

松井ら (1983) が魅力を感じる異性のパターンを見出したのは、現在から約35年前である。その間、男女雇用機会均等法施行、女性の高学歴化と社会進出の増加、長期的な不況、不安定な雇用の増大、価値観・生き方の多様化 (ダイバーシティ) など社会・経済的な変

化が生じ、それに伴い、後藤・廣岡 (2003) や吉岡・井上 (2018) が示したような男性役割と女性役割の変化・接近が生じている。そのなかで、魅力を感じる異性のパターンにも変化が生じていると予想される。

そこで、本研究では、松井ら (1983) の追試を行い、松井ら (1983) が見出した魅力を感じる異性のパターンが現代においても再現されるかを検証することを目的とする。

2 — 方法

調査対象者 東京都内の私立大学2校に通う大学生273名 (男性148名、女性125名; 平均年齢20.5歳、標準偏差1.15歳、レンジ18-26歳) を調査対象者とした。

調査内容

性別、学年、年齢を尋ねたのち、以下について回答を求めた。

1. **最も魅力を感じている異性の属性** 対象者には「最も魅力を感じている異性」を具体的に一人思い浮かべてもらった。その際、空想、想像上の人物や、マンガ・アニメ・ゲームなどのキャラクターのような実在しない人物は含まないことを教示した。次に、思い浮かべてもらった異性について、以下の (1) ~ (3) について回答を求めた。(1) **その異性の年齢**: 異性の年齢について、①15歳以下 (小・中学生)、②16~18歳 (高校生)、③19~21歳、④22~25歳、⑤26~29歳、⑥30~33歳、⑦34~37歳、⑧38~41歳、⑨42歳以上、のなかからひとつ選ぶように求めた。(2) **その異性と自分との年齢関係**: その異性と対象者との年齢関係について、①年上である、②同年である、③年下である、のなかからひとつ選ぶように求めた。(3) **その異性との関係・社会的立場**: その異性との関係やその異性の社会的立場について、①配偶者、②恋人、③友人、④上司や先生、⑤後輩や同僚、⑥芸能人等の有名人、⑦その他、のなかからひとつ選ぶように求めた。(1) ~ (3) で用いた選択肢は、すべて松井ら (1983) で用いられたものと同一であった。
2. **最も魅力を感じている異性の人柄** 最も魅力を感じている異性の人柄としてあてはまるものを、松井ら (1983) で用いられた18項目のなかからすべて選ぶように求めた。この際、松井ら (1983) で用いられていた「素直な」は調査実施時のミスにより適切に測定できなかったため、分析から除外した。
3. **最も魅力を感じている異性の印象・雰囲気** 最も魅力を感じている異性の印象や雰囲気としてあてはまるものを、松井ら (1983) で用いられた19項目のなかからすべて選ぶように求めた。
4. **魅力的だと思う異性の印象・雰囲気に対する推測** 男性対象者に対しては「女性が見て魅力的だと思う男性」の印象・雰囲気について、女性対象者に対しては「男性が見て魅力的だと思う女性」の印象・雰囲気について、3で用いた19項目のなかからすべて選ぶように求めた。

5. 魅力的だと思う異性の人柄に対する推測 男性対象者に対しては「女性が見て魅力的だと思う男性」の人柄について、女性対象者に対しては「男性が見て魅力的だと思う女性」の人柄について、2で用いた18項目のなかからすべて選ぶように求めた。この際、松井ら(1983)で用いられていた「素直な」は調査実施時のミスにより適切に測定できなかったため、分析から除外した。

実施時期・手続き

2017年10月から12月に、講義時間の一部を用いて、集団で調査を実施し、その場で回収した。調査への協力は任意であること、氏名など個人情報は取得しないこと、誰がどのような回答をしたか特定されないこと、回答を拒否・中断しても不利益は生じないことを、質問紙の表紙に明記し、口頭でも伝えた。

3——結果

男性が魅力を感じる女性像

まず、男性が最も魅力を感じる異性として思い浮かべた人物の年齢とその人物との関係・社会的立場のクロス集計表を作成した(Table 1)。その結果、年齢では「19～21歳」や「22～25歳」が多く、関係・社会的立場では「友人」や「恋人」「芸能人等の有名人」が多く想起されていた。

次に、男性が最も魅力を感じる異性として思い浮かべた人物の人柄の回答と、女性が「男性が魅力を感じる女性の人柄」の推測の回答を集計した(Table 2)。まず、男性の判断と

Table 1 男性が最も魅力を感じる異性の年齢とその人物との関係・社会的立場のクロス集計表

	配偶者	恋人	友人	上司や先生	後輩や同僚	芸能人等有名人	その他	計
15歳以下(小・中学生)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
16～18歳(高校生)	0 (0.0%)	1 (7.7%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	7 (53.8%)	1 (7.7%)	2 (15.4%)	13 (100.0%)
19～21歳	0 (0.0%)	17 (23.9%)	37 (52.1%)	1 (1.4%)	9 (12.7%)	6 (8.5%)	1 (1.4%)	71 (100.0%)
22～25歳	1 (2.4%)	11 (26.8%)	15 (36.6%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	12 (29.3%)	1 (2.4%)	41 (100.0%)
26～29歳	0 (0.0%)	2 (14.3%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	8 (57.1%)	0 (0.0%)	14 (100.0%)
30～33歳	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
34～37歳	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
38～41歳	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
42歳以上	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
計	1 (0.7%)	33 (22.4%)	57 (38.8%)	4 (2.7%)	17 (11.6%)	31 (21.1%)	4 (2.7%)	147 (100.0%)

女性の推測とを比較すると、「思いやりのある」「おおらかな」「寛大な」「優しい」「誠実な」「社交的な」「明朗な(明るい)」「聞き上手な」において、女性の推測よりも男性の判断の方が10%以上低かった。対して、女性の推測よりも男性の判断の方が10%以上高かったのは「感情的な」であった。松井ら(1983)と比較すると、男性の判断では、「明朗な(明るい)」と「知的な」において、松井ら(1983)よりも本研究の方が10%以上低くなっていた。対して、本研究の方が松井ら(1983)よりも10%以上高くなっていた項目はみられなかった。女性の推測については、「明朗な(明るい)」「知的な」「情熱的な」において、松井ら(1983)よりも本研究の方が10%以上低くなっており、「おおらかな」「寛大な」「真面目な」「社交的な」「聞き上手な」において、本研究の方が松井ら(1983)よりも10%以上高くなっていた。

また、男性が最も魅力を感じる異性として思い浮かべた人物の印象・雰囲気の回答と、女性が「男性が魅力を感じる女性の印象・雰囲気」の推測の回答を集計した(Table 3)。男性の判断と女性の推測とを比較すると、「清潔な」「華やかな」「健康な」「初々しい」「セクシーな」において女性の推測よりも男性の判断の方が10%以上低かった。対して、「クールな」は男性の判断の方が女性の推測よりも10%以上高かった。松井ら(1983)と比較すると、男性の判断では「クールな」と「華やかな」で本研究の方が松井ら(1983)よりも10%以上高くなっており、「健康な」「初々しい」は松井ら(1983)よりも10%以上低くなっていた。女性の推測では、「華やかな」において本研究の方が松井ら(1983)よりも10%以上高くなっ

Table 2 男性が最も魅力を感じる異性の人柄に関する項目への回答率と女性対象者の推測率

	本研究		松井ら(1983)	
	男性の判断	女性の推測	男性の判断	女性の推測
1 思いやりのある	46.6	86.4	52.6	90.9
2 おおらかな	22.3	48.8	26.3	30.3
3 寛大な	15.5	36.0	13.2	23.4
4 優しい	63.5	88.0	53.9	83.5
5 積極的な	14.9	16.8	18.4	10.4
6 自制心の強い	11.5	7.2	16.2	9.1
7 感情的な	14.9	3.2	8.8	4.8
8 誠実な	23.6	44.8	22.8	42.4
9 真面目な	32.4	24.8	29.8	13.9
10 社交的な	23.6	50.4	20.2	25.5
11 明朗な(明るい)	37.2	57.6	63.6	84.8
12 聞き上手な	17.6	66.4	17.5	49.8
13 知的な	23.6	20.0	38.2	39.0
14 静かな	22.3	13.6	24.6	20.3
15 情熱的な	10.8	3.2	19.3	19.9
16 あっさりした	17.6	8.8	18.4	12.6
17 周囲を忘れて仕事やスポーツに打ち込む	5.4	2.4	6.1	4.3

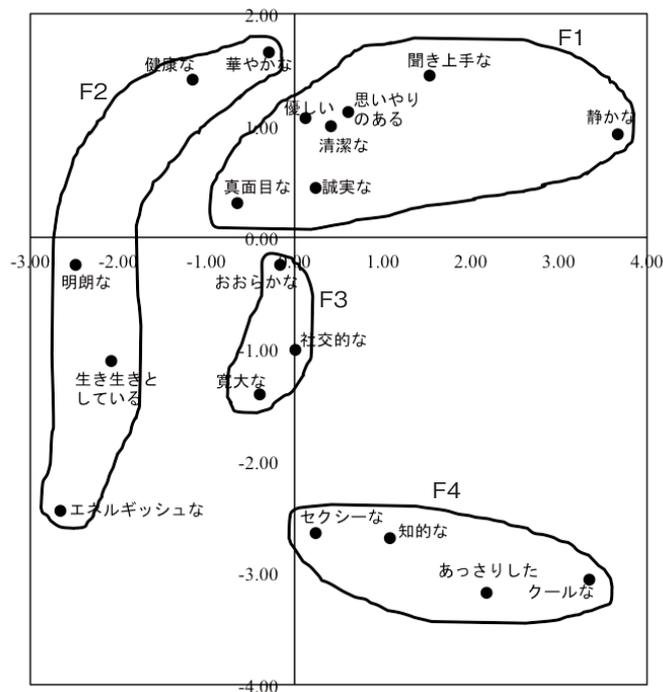
注：松井ら(1983)よりも10%以上高かったセルは太枠で、10%以上低かったセルは太破線枠で囲った。また、女性の推測よりも10%以上高かったセルは白抜きにし、10%以上低かったセルは網掛けにした。

Table 3 男性が最も魅力を感じる異性の印象・雰囲気に関する項目への回答率と女性対象者の推測率

	本研究		松井ら (1983)	
	男性の判断	女性の推測	男性の判断	女性の推測
1 生き生きとしている	45.3	55.2	45.6	79.7
2 洗練された	13.5	17.6	23.2	42.9
3 清潔な	56.8	84.8	60.1	84.8
4 きざな	0.7	0.0	0.4	0.4
5 肉感的な	14.9	20.0	9.6	14.7
6 エネルギッシュな	16.2	12.8	11.4	4.3
7 たくましい	9.5	4.0	4.4	1.3
8 スマートな	14.9	18.4	16.7	28.1
9 クールな	23.0	8.0	7.5	3.5
10 神秘的な	12.2	13.6	19.3	45.5
11 苦味ばった	0.7	1.6	0.9	0.4
12 華やかな	35.1	49.6	15.4	29.4
13 弱々しい	7.4	15.2	7.5	10.0
14 健康な	25.0	41.6	50.0	63.2
15 頹廢的な	4.1	0.8	1.8	2.2
16 陰りのある	6.1	2.4	8.3	6.1
17 初々しい	14.9	37.6	31.6	51.9
18 セクシーな	18.2	43.2	15.8	40.3
19 異性の誘惑にのりやすい	0.7	4.8	4.4	2.6

注：松井ら(1983)よりも10%以上高かったセルは太枠で、10%以上低かったセルは太破線枠で囲った。また、女性の推測よりも10%以上高かったセルは白抜きにし、10%以上低かったセルは網掛けにした。

Figure 1 男性が魅力を感じる異性のパターン



ており、「生き生きとしている」「洗練された」「神秘的な」「健康な」「初々しい」では松井ら (1983) よりも 10%以上低くなっていた。

さらに、魅力のある異性像のパターンを抽出するために、松井ら (1983) と同様に、魅力を感じる異性の人柄と印象・雰囲気に関する項目で、男性対象者の回答率が 15%以上であった 19 項目を用いてコレスポンデンス分析を行い、第 3 次元まで抽出した。アイテムカテゴリーの布置から、第 2 次元と第 3 次元をとりあげ、布置を図示した (Figure 1)。その結果、男性が魅力を感じる異性像は、大きく 4 パターンに分けられた。第 1 パターン (F1) は、「優しい」「思いやりのある」「聞き上手な」など受容的な態度を示すパターンであった。第 2 パターン (F2) は、「明朗な」「生き生きとしている」「エネルギッシュな」など活動的な態度を示すパターンであった。第 3 パターン (F3) は「おおらかな」「社交的な」など他者との調和的な態度を示すパターンであった。第 4 パターン (F4) は「知的な」「あっさりした」など冷静で客観的な態度を示すパターンであった。

女性が魅力を感じる男性像

まず、女性が最も魅力を感じる異性として思い浮かべた人物の年齢とその人物との関係・社会的立場のクロス集計表を作成した (Table 4)。その結果、年齢では「19～21 歳」や「22～25 歳」が多く、また、男性よりも「30～33 歳」以上の年齢を選ぶ割合が多かった (「30～33 歳」以上を選んだ対象者の割合：男性 5.4%、女性 22.6%)。関係・社会的立場では「芸能人等の有名人」、「恋人」が多く想起されており、男性ほど「友人」は想起されていなかった。

次に、女性が最も魅力を感じる異性として思い浮かべた人物の人柄の回答と、男性が

Table 4 女性が最も魅力を感じる異性の年齢とその人物との関係・社会的立場のクロス集計表

	配偶者	恋人	友人	上司や先生	後輩や同僚	芸能人等有名人	その他	計
15歳以下(小・中学生)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
16～18歳(高校生)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)	0 (-)
19～21歳	0 (0.0%)	20 (46.5%)	9 (20.9%)	1 (2.3%)	2 (4.7%)	3 (7.0%)	8 (18.6%)	43 (100.0%)
22～25歳	1 (2.4%)	13 (31.7%)	5 (12.2%)	0 (0.0%)	3 (7.3%)	15 (36.6%)	4 (9.8%)	41 (100.0%)
26～29歳	0 (0.0%)	3 (27.3%)	1 (9.1%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	6 (54.5%)	0 (0.0%)	11 (100.0%)
30～33歳	0 (0.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (90.0%)	0 (0.0%)	10 (100.0%)
34～37歳	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	5 (83.3%)	0 (0.0%)	6 (100.0%)
38～41歳	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.5)	1 (25.5)	4 (100.0)
42歳以上	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	8 (100.0%)
計	2 (1.6%)	38 (30.6%)	15 (12.1%)	6 (4.8%)	5 (4.0%)	44 (35.5%)	14 (11.3%)	124 (100.0%)

「女性が魅力を感じる男性の人柄」の推測の回答を集計した (Table 5)。まず、女性の判断と男性の推測とを比較すると、「思いやりのある」「寛大な」「積極的な」「誠実な」「社交的な」「聞き上手な」「知的な」において、男性の推測よりも女性の判断が 10%以上低く、「あっさりした」は男性の推測よりも女性の判断の方が 10%以上高かった。松井ら (1983) と比較すると、女性の判断では、「思いやりのある」「積極的な」「自制心の強い」「誠実な」「明朗な (明るい)」「知的な」「あっさりした」「周囲を忘れて仕事やスポーツに打ち込む」において、本研究の方が松井ら (1983) よりも 10%以上低くなっており、「優しい」は松井ら (1983) よりも 10%以上高くなっていていた。男性の推測については、「おおらかな」「自制心の強い」「明朗な (明るい)」「知的な」「情熱的な」「あっさりした」「周囲を忘れて仕事やスポーツに打ち込む」において本研究の方が松井ら (1983) よりも 10%以上低くなっており、「優しい」「真面目な」「社交的な」は松井ら (1983) よりも 10%以上高くなっていていた。

また、女性が最も魅力を感じる異性として思い浮かべた人物の印象・雰囲気の回答と、男性が「女性が魅力を感じる男性の印象・雰囲気」の推測の回答を集計した (Table 6)。女性の判断と男性の推測とを比較すると、「生き生きとしている」「清潔な」「肉感的な」「エネルギッシュな」「たくましい」「健康な」において、女性の判断の方が男性の推測よりも 10%以上低くなっており、男性の推測よりも 10%以上高くなっていていた項目はみられなかった。松井ら (1983) と比較すると、女性の判断では、「生き生きとしている」「洗練された」「健康な」

Table 5 女性が最も魅力を感じる異性の人柄に関する項目への回答率と男性対象者の推測率

	本研究		松井ら (1983)	
	女性の判断	男性の推測	女性の判断	男性の推測
1 思いやりのある	49.6	71.6	61.5	76.3
2 おおらかな	28.0	29.1	32.0	41.2
3 寛大な	26.4	39.2	35.5	48.7
4 優しい	72.8	73.0	60.2	58.8
5 積極的な	20.0	37.8	34.6	43.0
6 自制心の強い	12.0	12.8	29.0	32.9
7 感情的な	8.0	9.5	5.6	4.8
8 誠実な	39.2	51.4	59.1	47.8
9 真面目な	34.4	42.6	34.6	21.9
10 社交的な	32.8	48.0	26.4	31.6
11 明朗な(明るい)	32.8	41.2	51.5	55.7
12 聞き上手な	27.2	45.3	18.6	29.8
13 知的な	24.0	35.8	47.2	51.8
14 静かな	13.6	6.8	15.2	10.1
15 情熱的な	15.2	16.2	22.5	46.5
16 あっさりした	15.2	4.7	27.3	24.6
17 周囲を忘れて仕事やスポーツに打ち込む	4.8	10.1	22.5	30.3

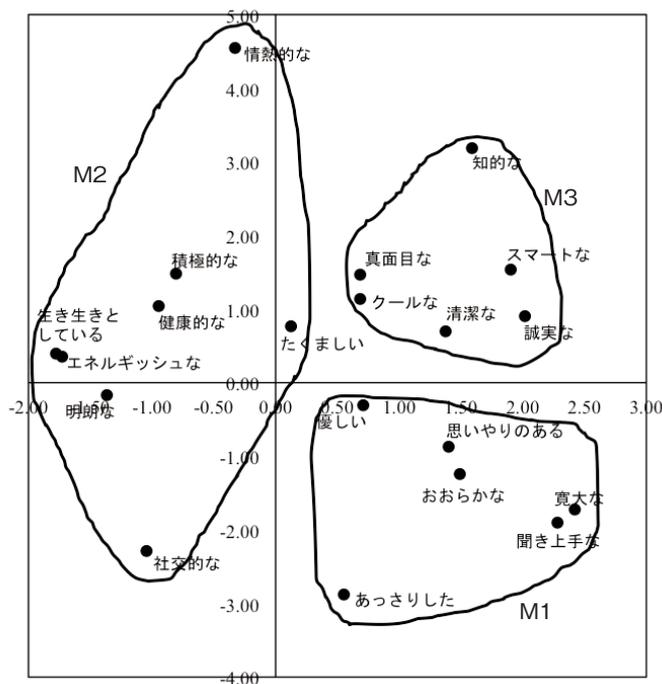
注：松井ら(1983)よりも10%以上高かったセルは太枠で、10%以上低かったセルは太破線枠で囲った。また、男性の推測よりも10%以上高かったセルは白抜きにし、10%以上低かったセルは網掛けにした。

Table 6 女性が最も魅力を感じる異性の印象・雰囲気に関する項目への回答率と男性対象者の推測率

	本研究		松井ら (1983)	
	女性の判断	男性の推測	女性の判断	男性の推測
1 生き生きとしている	36.0	52.7	58.4	70.2
2 洗練された	11.2	19.6	27.3	42.1
3 清潔な	46.4	63.5	49.8	56.1
4 きざな	3.2	2.7	3.0	5.3
5 肉感的な	9.6	21.6	3.0	15.4
6 エネルギッシュな	20.8	42.6	30.7	64.5
7 たくましい	17.6	58.1	22.1	54.4
8 スマートな	32.8	34.5	30.7	39.9
9 クールな	35.2	41.2	19.9	33.3
10 神秘的な	8.0	8.1	9.1	16.7
11 苦味ばした	3.2	2.7	6.1	31.1
12 華やかな	11.2	14.9	4.3	10.1
13 弱々しい	6.4	1.4	1.3	1.8
14 健康な	22.4	41.9	47.6	56.1
15 頹廃的な	3.2	2.0	1.3	5.3
16 陰りのある	8.8	1.4	12.6	20.6
17 初々しい	5.6	2.7	5.6	4.8
18 セクシーな	12.0	18.2	8.7	21.1
19 異性の誘惑にのりやすい	0.8	3.4	4.3	3.1

注：松井ら(1983)よりも10%以上高かったセルは太枠で、10%以上低かったセルは太破線枠で囲った。また、男性の推測よりも10%以上高かったセルは白抜きにし、10%以上低かったセルは網掛けにした。

Figure 2 女性が魅力を感じる異性のパターン



において本研究の方が松井ら（1983）よりも10%以上低くなっており、「クールな」は松井ら（1983）よりも10%以上高くなっていて、男性の推測では、「生き生きとしている」「洗練された」「エネルギッシュな」「苦味ばった」「健康な」「陰りのある」において、本研究の方が松井ら（1983）よりも10%以上低くなっており、松井ら（1983）よりも10%以上高くなっている項目はみられなかった。

さらに、魅力のある異性像のパターンを抽出するために、松井ら（1983）と同様に、魅力を感じる異性の人柄と印象・雰囲気に関する項目で、女性対象者の回答率が15%以上であった20項目を用いてコレスポネンス分析を行い、第3次元まで抽出した。アイテムカテゴリーの布置から、第2次元と第3次元をとりあげ、布置を図示した（Figure 2）。その結果、女性が魅力を感じる異性像は、大きく3パターンに分けられた。第1パターン（M1）は、「優しい」「思いやりのある」「聞き上手な」など受容的な態度を示すパターンであった。第2パターン（M2）は、「生き生きとしている」「積極的な」「エネルギッシュな」など活動的な態度を示すパターンであった。第3パターン（M3）は「真面目な」「知的な」「誠実な」など冷静で客観的な態度を示すパターンであった。

4——考察

本研究の目的は、松井ら（1983）の追試を通して、現在における魅力的な異性の特徴やパターンを明らかにすることであった。以下、松井ら（1983）との差異を中心に、本研究結果について検討する。

魅力を感じる異性の特徴

松井ら（1983）では、魅力的な女性の特徴として、「明朗な（明るい）」（63.6%）、「清潔な」（60.1%）、「素直な」（54.4%）、「優しい」（53.9%）、「思いやりのある」（52.6%）が上位5つにあげられていた。また、魅力的な男性の特徴としては、「思いやりのある」（61.5%）、「優しい」（60.2%）、「誠実な」（59.1%）、「生き生きとしている」（58.4%）、「明朗な（明るい）」（51.5%）が上位5つにあげられている。松井ら（1983）は順位相関係数をもとに、『魅力ある異性の像は男女で類似している』と述べている。本研究において、回答率が高かった上位5つをみると、魅力的な女性の特徴は、「優しい」（63.5%）、「清潔な」（56.8%）、「思いやりのある」（46.6%）、「生き生きとしている」（45.3%）、「明朗な（明るい）」（37.2%）であり、魅力的な男性の特徴は「優しい」（72.8%）、「思いやりのある」（49.6%）、「清潔な」（46.4%）、「誠実な」（39.2%）、「生き生きとしている」（36.0%）であった。魅力的な女性の特徴では、本研究で除外された「素直な」以外の4つがすべて含まれており、魅力的な男性の特徴も「清潔な」以外の4つが一致していた。男女でも4つが一致していたことが、これらはいずれも、男性・女性間わずもっていることが望ましいと考えられる特性であると考えられる。ここから、1982年当時の対象者が魅力的に思う異性の特徴と、現在の大学生が魅力的に思う異性の特徴はそれほど

大きく変化しておらず、男女でも魅力的な異性の特徴には大きな違いがなく、人間的に有していることが望ましい特性（社会的良）に対して魅力が感じられていると推測される。

一方、回答率については、本研究と松井ら（1983）での差異がみられた。魅力的な異性の人柄や印象・雰囲気に関する38項目中、魅力的な女性の特徴の男性対象者の回答率は、38項目のうち4項目で松井ら（1983）よりも10%以上減少し、10%以上上昇したのは2項目であった。また、女性対象者が推測する魅力的な女性の特徴の回答率は、38項目のうち8項目で松井ら（1983）よりも10%以上減少し、6項目で10%以上上昇していた。このうち、「明朗な（明るい）」「知的な」「健康な」「初々しい」は男性の判断と女性の推測の両方で松井ら（1983）よりも10%以上減少し、両者ともに10%以上の上昇がみられたのは「華やかな」のみであった。

魅力的な男性の特徴に関する女性対象者の回答率については、38項目のうち、11項目で松井ら（1983）よりも10%以上減少し、10%以上上昇したのは2項目であった。また、男性対象者が推測する魅力的な男性の特徴の回答率は、38項目のうち、13項目で松井ら（1983）よりも10%以上減少し、4項目が10%以上上昇していた。このうち、「自制心の強い」「明朗な（明るい）」「知的な」「あっさりした」「周囲を忘れて仕事やスポーツに打ち込む」「生き生きとしている」「洗練された」「健康な」は女性の判断と男性の推測の両方で松井ら（1983）よりも10%以上減少し、両者とも10%以上の上昇がみられたのは「優しい」のみであった。

このように、特に女性が魅力的に感じる男性の特徴に関して、1982年当時の回答と本研究での回答に変化が多くみられた。後藤・廣岡（2003）は、男性役割期待と社会的評価にズレが生じ始め、男性役割期待を身につければ自動的に社会的に望ましい性質も身につくというわけにはいなくなると示唆している。かつては「男は仕事、女は家庭」という性別分業的な伝統的性役割観が、女性の高学歴化と社会進出の増加により、「男は仕事、女は仕事と家庭」というように女性に多くの役割を期待するようになった。そして現在は、「女は仕事と家庭、男も仕事と家庭」というように、男性にかつて女性的といわれた役割が求められるようになってきている。しかし、女性や社会が期待する新しい男性役割に対応できている男性は決して多くはないと考えられる。女性の判断における回答率が松井ら（1983）よりも11項目で減少しているということは、最も魅力的な男性を思い浮かべても、その男性が新しい男性役割には十分に対応できていないため、魅力的であると思える部分が少ないのではないかと推察される。このような社会の変化とそれに伴う性役割の変化によって、松井ら（1983）の頃に比べ、現在の女性は男性に対して魅力を感じにくい状態にあると考えられる。

このことを男性も察しているのか、男性の推測も、松井ら（1983）に比べて13項目で減少していた。大屋（2009）では調査の結果から、20代男性は他の年代に比べて「異性に対する自分の魅力」に対してコンプレックスを抱いていると指摘している。女性が「たかましくなった」と言われる現在において、以前ほど「男性らしさ」を発揮する機会や状況が

なく、恋愛関係をもっている同年代も少ないなか、男性の「女性が魅力を抱く男性の特徴」の推測の回答率が多くの項目で減少していることは、「異性に対する自分の魅力」を感じられないことを反映していると推察される。

魅力を感じる異性像のパターン

本研究でも松井ら（1983）と同様、コレスポネンス分析（松井ら（1983）は数量化Ⅲ類）によって、魅力を感じる異性像のパターンを抽出した。松井ら（1983）では、魅力的な女性像は、6パターン、男性像は5パターンに分けられている。本研究では、女性像は4パターン、男性像は3パターンに減少している。本研究の分類と松井ら（1983）の分類の対応を Table 7 に示す。

女性像では、松井ら（1983）の第4パターンと本研究の第2パターンが、活動的な態度を示すパターンとしてほぼ一致していた。一方、本研究でみられた他の3パターンは、松井ら（1983）でみられたパターンがいくつか合わさったパターンであると考えられる。男性像についても、同様であり、本研究でみられた3パターンは、松井ら（1983）でみられた5パターンの混合型であるといえる。ここから、松井ら（1983）の調査当時では細分化されていた魅力を感じる異性像は、本調査までの間に、より大きな枠組みに再構成されたと考えられる。

また、本研究でみられた女性像と男性像を比較すると、受容的な態度を示すパターン

Table 7 松井ら（1983）と本研究でみられた魅力を感じる異性像のパターン

		松井ら（1983）	本研究	
女性像	1	洗練された、スマートな、神秘的な、静かな、知的な	セクシー、知的な、あっさりした、クールな	F4
	2	セクシーな、情熱的な、積極的な、社交的な		
	4	生き生きとしている、健康な、明朗な	エネルギッシュな、生き生きとしている、明朗な、健康な、華やかな	F2
	5	誠実な、真面目な、自制心の強い	真面目な、誠実な、清潔な、優しい、思いやりのある、聞き上手な、静かな	F1
	3	初々しい、清潔な、素直な、思いやりのある、優しい		
	6	あっさりした、おおらかな、聞き上手な	おおらかな、社交的な、寛大な	F3
男性像	1	静かな、クールな、自制心の強い、知的な		
	2	清潔な、洗練された、スマートな	知的な、真面目な、クールな、スマートな、誠実な、清潔な	M1
	5	まじめな、寛大な、誠実な、優しい		
	4	社交的な、明朗な、健康な、生き生きとしている、素直な、あっさりした	優しい、思いやりのある、おおらかな、寛大な、聞き上手な、あっさりした	M3
	3	情熱的な、たくましい、積極的な、仕事やスポーツに打ち込む、エネルギッシュな	情熱的な、積極的な、健康な、生き生きとしている、エネルギッシュな、明朗な、社交的な	M2

(F1、M3)、活動的な態度を示すパターン (F2、M2)、冷静で客観的な態度を示すパターン (F4、M1) が共通して示されている。かつてほど「男らしさ」「女らしさ」が求められなくなった現代では、「男らしさ」「女らしさ」が強調されるようなパターンよりも、男女ともに人として好ましいパターンに魅力を感じると推察される。この結果は、「男女とも次第に、伝統的な形での男らしさ・女らしさを異性に求めなくなる傾向がみられている」という上瀬 (1998) の指摘とも合致する結果である。吉岡・井上 (2018) は、女性役割と男性役割が互いに取り込み接近していると述べており、その結果、女性が魅力を感じる (期待する) 男性の特性も、男性が魅力を感じる (期待する) 女性の特性も、大差がなくなっていたと考えられる。このことは、多様性という観点からみると、魅力を感じる異性像の多様性は小さくなり、男女ともに数種類の限られたパターンにのみ魅力を感じるようになってきているともいえる。

本研究の課題と今後の展望

本研究では、松井ら (1983) の追試を行い、1982年の調査結果と2017年の調査結果の比較を通して、魅力を感じる異性像の変化を明らかにすることを目的とした。その結果、女性の男性に抱く魅力の変化や、魅力を感じるパターンの収束化などを明らかにすることができた。そして、その背景には、社会の変化に伴う性役割期待の変化 (男性役割と女性役割の接近) があると推測された。

一方、松井ら (1983) では、大学生だけではなく、28~32歳の社会人160名も調査対象となっていた。松井ら (1983) では、回答を大学生と社会人を別にして集計したが、検定の結果、ほとんどの項目で両者の回答率の差がみられなかったことが報告されている。しかし、追試を行う以上、本研究でも社会人を対象とし、現在でも大学生と社会人との間で回答率に差異がみられないのかを確認する必要がある。

また、松井ら (1983) に含まれていた「素直な」という項目が、本研究では実施時のミスにより分析に加えることができなかった。松井ら (1983) において、「素直な」は、魅力を感じる女性の特徴では3番目 (54.4%) にあげられている項目であり、魅力を感じる女性像においては重要な項目であったと考えられる。本研究においても、「素直な」を加えて分析できるよう、再度調査を実施することが求められる。

本研究では、魅力を感じる女性像が4パターン、男性像が3パターン抽出された。川名 (2011) は、性的関係、恋愛関係、婚姻関係という3つの関係性では求める魅力が異なることを明らかにしている。本研究でも、魅力を感じる異性像には、芸能人等の有名人や恋人、友人など多様な相手が含まれていた。相手との関係性によって、魅力を感じる異性のパターンが異なるのかについても、今後検討する必要がある。

《引用文献》

- 後藤 淳子・廣岡 秀一 (2003). 大学生における性役割特性語認知と性役割態度の変化 三重大学教育学部研究紀要 教育科学, 54, 145-158.
- 伊藤 裕子 (1978). 性役割の認知に関する研究 教育心理学研究, 26, 1-11
- 上瀬 由美子 (1998). 異性交際の深まり (高校生) 現代のエスプリ, 368, 40-51.
- 加藤 隆勝・返田 健 (1961). 青年の自己像, 理想的自己像および理想的異性像に関する一考察 教育心理学研究, 9, 1-8.
- 川名 好裕 (2011). 関係性の違いによる異性の対人魅力 立正大学心理学研究年報, 2, 1-8.
- ライフデザイン研究所 (編) (1996). 続 現代高校生のライフスタイル・意識・価値観—第3回 高校生の生活環境に関する調査 ライフデザイン研究所
- 松井 豊・江崎 修・山本 真理子 (1983). 魅力を感じる異性像—同性の推測と実際のズレ— 日本社会心理学会第24回大会発表論文集, 44-45.
- 大屋 洋子 (2009). いま20代女性はなぜ40代男性に惹かれるのか 講談社+α新書
- Rosenberg, S., Nelson, C., & Vivekananthan, P. S. (1968). Multidimensional approach to the structure of personality impression. *Journal of Personality & Social Psychology*, 9, 283-294.
- 詫摩 武俊 (1973). 恋愛と結婚 依田 新・大西 誠一郎・斎藤 耕二・津留 宏・西平 直喜・藤原 喜悦・宮川 知彰 (編) 現代青年心理学講座5 現代青年の性意識 (pp.141-193) 金子書房
- 戸塚 唯氏・森 大介・児玉 真樹子・深田 博己 (2002). 現実の自己像, 異性に呈示する自己像, 異性が抱く理想のずれ 広島大学心理学研究, 2, 47-62.
- 吉岡 真梨子・井上 弥 (2018). 性役割特性語の分類にみる性役割期待の変化 学習開発学研究, 11, 107-114.

付記:本研究は、日本心理学会第82回大会(2018年、仙台国際センター)にてポスター発表を行ったものを、再分析し論文化したものである。

また、本研究は、和光大学心理教育学科専門科目「青年心理学演習」内において、以下の(当時)3年次受講生5名と共同で行ったものである:大山陽子、佐藤美月、田代郁文、野上兼太郎、山崎夢花(50音順)。